

(別表 2-1) 子育て支援員専門研修(地域保育コース)

1. 共通科目

(1) 受講方法

- ①「講義」: オンライン研修
- ②「講義・演習」: オンライン研修又は集合型研修
- ③「実技」及び「演習」: 集合型研修

(2) 受講者想定数 100 名

(3) 受講会場 集合型研修: 東・北信、中・南信の計 2 会場

(4) 研修日数等 受講生の負担にならない研修日程、研修時間とすること。

(5) 受講科目

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
1. 地域保育の基礎を理解するための科目				
①乳幼児の生活と遊び	講義	60 分	①子どもの発達と生活 ②子どもの遊びと環境 ③人との関係と保育のねらい・内容 ④子どもの一日の生活の流れと役割	①発達・成長過程に応じた子どもの生活への援助方法について理解する。 ②発達にふさわしい子どもの遊びとその環境のあり方について理解する。 ③子ども同士の関わりあいが、発達を促すことについて理解する。 ④子どもの一日の生活の流れの中での保育者(※)の役割について理解する。 ※【共通科目】において、保育者とは、家庭的保育補助者、保育従事者及び提供会員をいう。
②乳幼児の発達と心理	講義	90 分	①発達とは ②発達時期の区分と特徴 ③ことばとコミュニケーション ④自分と他者 ⑤手のはたらきと探索 ⑥移動する力 ⑦こころと行動の発達を支える保育者の役割	①0歳から3歳くらいまでの乳幼児期の発達のポイントを学び、発達に応じた遊びやその安全性について理解する。 ②子どもの発達を支える保育者の役割について理解する。
③乳幼児の食事と栄養	講義	60 分	①離乳の進め方に関する最近の動向 ②栄養バランスを考えた幼児期の食事作りのポイント ③食物アレルギー ④保育者が押さえる食育のポイント	①離乳の進め方に関する最近の動向について理解する。 ②幼児期の昼食作りに役立つ栄養バランスのポイント、食品衛生の基礎知識について理解する。 ③食物アレルギーについて理解する。 ④保育者が押さえる食育のポイントについて理解する。
④小児保健 I	講義	60 分	①乳幼児の健康観察のポイント ②発育と発達について ③衛生管理・消毒について ④薬の預かりについて	①保育を行う上で必要となる健康管理のポイントや疾病の予防と感染防止への対応、保育中の発症への対応などの基礎知識について理解する。 ②現場に生かせる、より具体的な対応について理解する。

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
⑤小児保健Ⅱ	講義	60 分	①子どもに多い症例とその対応 ②子どもに多い病気（S I D S等を含む）とその対応 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」「保育所における感染症対策ガイドライン」を周知する。 ③事故予防と対応	①子どもに多い症状・病気を学び、その対応について理解する。 ②小児に多い事故を学び、その予防と対応について理解する。 ③異物除去法、心肺蘇生法を学び、緊急時の対応について理解する。
⑥心肺蘇生法	実技	120 分	①心肺蘇生法、AED、異物除去法等 ※見学だけの科目にならないよう参加人数等の配慮が必要。	①乳幼児を対象とした救急救命が行えるように、その技術を身につける。
2. 地域保育の実際を理解するための科目				
⑦地域保育の環境整備	講義	60 分	①保育環境を整える前に ②保育に必要な環境とは ③環境のチェックポイント	①保育環境の整備に当たり、基本的な考え方と配慮事項について理解する。 ②保育を行うために作られた場所ではないところを保育の場として利用する上での工夫や配慮について理解する。 ③保育に必要な設備・備品とその配置について、具体的事例及びチェックポイントを示し、自己点検を行えるようにする。
⑧安全の確保とリスクマネジメント	講義	60 分	①子どもの事故 ②子どもの事故の予防保育上の留意点 ③緊急時の連絡・対策・対応 ④リスクマネジメントと賠償責任	①保育環境上起こりうる危険について学び、事故を未然に防ぐための予防策や安全確保の留意点について理解する。 ②万一事故が起こった場合の対応や報告について理解する。
⑨保育者の職業倫理と配慮事項	講義・演習	90 分	①保育者の職業倫理 ②保育者の自己管理 ③地域等との関係 ④保育所や様々な保育関係者との関係 ⑤行政との関係 ⑥地域型保育の保育者の役割の検討（演習）	①保育者としての職業倫理について理解する。 ②保育者の自己管理について理解する。 ③地域住民との関係づくりについて理解する。（家庭的保育における家庭的保育者の家族との関係にも留意する。） ④保育所や様々な保育関係者との関係づくり、行政との関係などについて理解する。 ⑤児童虐待が疑われた場合の保育者としての対応について理解する。

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
3. 研修を進める上で必要な科目				
⑩特別に配慮を要する子どもへの対応（0～2歳児）	講義	90 分	①気になる行動 ②気になる行動をする子どもの行動特徴 ③気になる行動への対応の考え方 ④気になる行動の原因とその対応 ⑤保育者の役割 ⑥遊びを通して、子どもの発達を促す方法	①0～2歳の気になる行動をどのように考え、どう関わっていけばよいかを行動特徴の把握などを通して理解する。 ②特別に配慮を要する子どもへの対応における保育者の役割について理解する。 ※ 発達の遅れが疑われる場合、保護者の思いを踏まえた上での対応の必要性について理解する。 （専門機関との連携を含む。） ③遊びを通して、子どもの発達を促す方法について理解する。
⑪グループ討議	演習	90 分	①討議の目的 ②討議の原則 ③討議の効果 ④討議のすすめ方 ⑤グループ討議（演習）	①研修参加者が討議のテーマに沿って話し合うための方法やマナーについて理解する。 ②テーマについて、自分の意見を述べたり、他の参加者の意見を聞く相互作用を通して、考えをまとめ、問題点を整理し、解決方法を検討する。 ③今後学びたい内容あるいは助言者に質問したいことなどを、グループ内で話し合う。 ④研修で学んだこと等についてグループ討議を行い、理解を深める。

2. 選択科目（地域型保育）

- (1) 受講方法 オンライン研修又は集合型研修
 (2) 受講者想定数 40 名
 (3) 受講会場 東・北信、中・南信の計 2 会場（集合型研修の場合）
 (4) 研修日数等 受講生の負担にならない研修日程、研修時間とすること。
 (5) 受講科目

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
①地域型保育の概要	講義	60 分	①地域型保育の事業概要 ②地域型保育の特徴 ③地域型保育のリスクを回避するための課題	①地域型保育の各事業の概要や位置付けについて理解する。 ②地域型保育の特徴を学び、保育所保育との共通点、相違点について理解する。 ③規模の小さい地域型保育の意義及びリスクについて学び、リスクを回避するための課題について理解する。
②地域型保育の保育内容	講義・演習	120 分	①地域型保育における保育内容 ②地域型保育の 1 日の流れ ③異年齢保育 ④新しく子どもを受け入れる際の留意点 ⑤地域の社会資源の活用 ⑥保育の計画と記録 ⑦保育の体制	①地域型保育における基本的な 1 日の流れや保育内容について理解する。 ②少人数の異年齢児を保育する際の方法、工夫、留意事項などについて理解する。 ③新しく子どもを受け入れる際の留意点について理解する。 ④計画や記録の必要性を学び、子どもの育ちの見通しをもって保育することの重要性について理解する。
③地域型保育の運営	講義	60 分	①設備及び運営の基準の遵守 ②情報提供 ③受託までの流れ ④地域型保育の運営上必要な記録と報告	①設備及び運営の基準の内容について理解する。 ②情報提供の方法、受託前の利用者との面接、記録や報告の管理などについて理解する。
④地域型保育における保護者への対応	講義・演習	90 分	①保護者との関わりと対応 ②保護者への対応の基本 ③子育て支援における保護者への相談・助言の原則 ④保護者への対応～事例を通して考える～	①保護者と協力して子どもの発達を支えるとともに、保護者の子育てを支援する役割についての意義を学び、このために必要な知識と技術について理解する。 ②地域型保育における保護者への対応において、保護者との信頼関係づくりや保護者への支援が必要な際の関わり方について、重要なポイントを学び、事例検討などを通して考え、理解する。
⑤見学実習オリエンテーション	演習	30 分～ 60 分	①見学実習の目的 ②見学実習のポイントと配慮事項 ※見学実習を講義・演習に代える場合は省略。	①見学実習を行うに当たって必要な配慮事項や見学のポイントについて理解する。 ②見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
⑥見学実習	実習 〔講義・演習〕	2日 以上 〔実習と同程度の内容を担保（1日以上）〕	1日目 保育の1日の流れを見る 2日目 保育の記録・計画、受付等の書類や環境構成、保護者対応の実際等について学ぶ ※認可保育所での0～2歳児の保育に関する見学実習も可能とする。 〔※可能な限り見学実習を実施することが望ましいが、地域の実情等に応じ、DVDの視聴等と講義・演習などによる実施も可能とする。〕	①地域型保育の現場に出向き、講義で学んだ環境整備や保育内容、安全確保など、実際に見学・観察を通して理解する。 ②保育に取り組むに際して、具体的に参考になることについて理解する機会とする。（家庭的保育は、家庭的保育者個人の自宅であり、異なる地域の環境の中でそれぞれ独自の工夫をして、保育を展開していることに留意する。） ③（見学実習を講義・演習に代える場合）子どものおむつ交換、食事の介助など、子どもの生活援助について演習を通して理解する。ミルクやほ乳瓶などの実物を知る。

注) ⑤見学実習オリエンテーション及び⑥見学実習については、講義・演習により実習と同程度の内容で1日以上実施も可能とし、実習又は講義・演習のどちらかの提案を行うこと。

3. 選択科目（一時預かり事業）

- (1) 受講方法 オンライン研修又は集合型研修
 (2) 受講者想定数 30 名
 (3) 受講会場 県内 1 会場（集合型研修の場合）
 (4) 研修日数等 受講生の負担にならない研修日程、研修時間とすること。
 (5) 受講科目

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
①一時預かり事業の概要	講義	60 分	①一時預かり事業とは ②一時預かり事業の意義 ③一時預かり事業の特徴 ④一時預かり事業従事者の基本姿勢	①一時預かり事業の子育て支援としての意義、継続的な保育との相違について理解する。 ②一時預かり事業の特徴を学び、従事者として、子どもや保護者との関わり方における基本姿勢について理解する。
②一時預かり事業の保育内容	講義・演習	120 分	①初めて会う子どもとの関係づくり ②一人ひとりの発達に応じた生活・遊びの援助 ③子どもが安心して過ごせる環境づくり	①初めて会う子どもとの信頼関係を形成する具体的な関わり方について理解する。 ②一時預かり事業は子どもの家庭生活の延長にあるため、一人ひとりの状態に対応し、子どもが安心して過ごせるようにすることについて理解する。 ③子どもの不安を安心に変える具体的な関わり方について理解する。
③一時預かり事業の運営	講義	60 分	①一時預かり事業の業務の流れ ②情報提供、受付、登録 ③記録、保護者への報告 ④職場倫理・チームワーク、職員間の共通理解	①一時預かり事業の業務の流れについて理解する。 ②記録や保護者への報告の記載の仕方、保護者のプライバシーの遵守、職員間の連携の必要性について理解する。
④一時預かり事業における保護者への対応	講義・演習	60 分	①保護者との関わりと対応 ②保護者への対応の基本 ③子育て支援における保護者への相談・助言の原則 ④保護者への対応～事例を通して考える ～	①保護者と協力して子どもの発達を支えるとともに、保護者の子育てを支援する役割についての意義を学び、このために必要な知識と技術について理解する。 ②一時預かり事業における保護者への対応において、信頼関係づくりや保護者への支援が必要な際の関わり方について、重要なポイントを学び、事例検討などを通して考え、理解する。
⑤見学実習オリエンテーション	演習	30 分～ 60 分	①見学実習の目的 ②見学実習のポイントと配慮事項 ※見学実習を講義・演習に代える場合は省略。	①見学実習を行うに当たって必要な配慮事項や見学のポイントについて理解する。 ②見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
⑥見学実習	実習 〔 講義 ・ 演習 〕	2 日 以上 〔 実習と 同程度 の内容を 担保 (1 日 以上) 〕	1 日目 保育の 1 日の流れを見る 2 日目 保育の記録・計画、受付等 の書類や環境構成、保護者 対応の実際等について学 ぶ 〔 ※可能な限り見学実習 を実施することが望 ましいが、地域の実 情等に応じ、DVD の視聴等と講義・演 習などによる実施も 可能とする。 〕	①一時預かり事業の現場に出向き、講義で 学んだ環境整備や保育内容、安全確保な ど、実際に見学・観察を通して理解する。 ②保育に取り組むに際して、具体的に参考 になることについて理解する機会とす る。 ③（見学実習を講義・演習に代える場合） 子どものおむつ交換、食事の介助など、 子どもの生活援助について演習を通し て理解する。ミルクやほ乳瓶などの実 物を知る。

注) ⑤見学実習オリエンテーション及び⑥見学実習については、講義・演習により実習と同程度の内容で 1 日以上実施も可能とし、実習又は講義・演習のどちらかの提案を行うこと。

4. 選択科目（ファミリー・サポート・センター）

- (1) 受講方法 オンライン研修又は集合型研修
 (2) 受講者想定数 30 名
 (3) 受講会場 県内 1 会場（集合型研修の場合）
 (4) 研修日数等 受講生の負担にならない研修日程、研修時間とすること。
 (5) 受講科目

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
① ファミリー・サポート・センター事業の概要	講義	60 分	①ファミリー・サポート・センターとは ②ファミリー・サポート・センターの意義 ③ファミリー・サポート・センターの特徴	①地域における相互援助活動としてのファミリー・サポート・センターの活動の内容や意義について理解する。
② ファミリー・サポート・センターの援助内容	講義・演習	120 分	①ファミリー・サポート・センター援助活動における基本姿勢 ②援助活動の流れ ③活動を行う上での配慮事項 ④発達に応じた保育内容・生活援助	①保育者（提供会員）として子どもや保護者（依頼会員）に対する心構え、配慮しなければならない点について理解する。 ②援助活動の流れについて理解する。 ③年齢や発達に応じた保育内容・生活援助をする際の方法や工夫、留意事項などについて理解する。
③ ファミリー・サポート・センターにおける保護者（依頼会員）への対応	講義・演習	90 分	①保護者（依頼会員）との関わりと対応 ②保護者（依頼会員）への対応の基本 ③保護者（依頼会員）への対応～事例を通して考える～	①保護者（依頼会員）と保育者（提供会員）が協力して子どもの発達を支えるとともに、保護者（依頼会員）の子育てを支援する役割の意義について理解する。また、このために必要な知識と技術について理解する。 ②保護者（依頼会員）との対応において、保護者（依頼会員）との信頼関係づくりや保護者（依頼会員）への支援が必要な際の関わり方について、重要なポイントを学び、事例検討などを通して考え、理解する。
④援助活動の実際	講義・演習	120 分	①実際の活動について学ぶ 活動経験者に援助活動の実際を聞く 活動に関する疑問・不安等についての質疑応答	①先輩保育者（提供会員）から直接話を聞き、講義で学んだ環境整備、援助内容、安全確保などについて理解する。 ②援助活動に取り組むに際して、具体的に参考になることについて理解する機会とする。

4. 選択科目（こども誰でも通園制度（乳児等通園支援））

- (1) 受講方法 オンライン研修若しくは集合型研修
 (2) 受講者想定数 30名
 (3) 受講会場 県内1会場（集合型研修の場合）
 (4) 研修日数等 受講生の負担にならない研修日程、研修時間とすること。
 (5) 受講科目

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
①こども誰でも通園制度の概要	講義	60分	①こども誰でも通園制度とは ②こども誰でも通園制度の意義 ③事業を実施する上での留意事項 ④全てのこどもの育ちを応援し、全ての子育て家庭に対する支援を強化するために	①こども誰でも通園制度の事業概要や制度上の位置づけを把握する。 ②こども誰でも通園制度が創設された背景を学び、こども誰でも通園制度の意義を理解する。 ③こども誰でも通園制度に従事する保育者としての、こどもや保護者との関わり方における基本姿勢について理解する。
②こども誰でも通園制度の保育内容	講義・演習	120分	①こどもの理解に基づく援助 ②一人一人に応じた生活・遊びの援助 ③こどもが安心して過ごせる環境づくり ④こどもとの関係づくりと利用状況等を踏まえた配慮	①こどもの状態・状況等に応じた生活・遊びの援助について理解する。 ②こどもが安心して過ごすことができる環境づくり、職員との関係づくりのための具体的な関わり方、配慮や工夫について理解する。
③こども誰でも通園制度の運営	講義	60分	①こども誰でも通園制度の業務の流れ ②情報提供、事前面談 ③記録、保護者への報告 ④職場倫理、チームワーク・職員間の連携、共通理解	①こども誰でも通園制度の業務の流れについて理解する。 ②記録や保護者への報告の仕方、利用者のプライバシーの遵守（個人情報保護や守秘義務）、職員間の連携の必要性について理解する。
④こども誰でも通園制度における保護者への対応	講義・演習	90分	①保護者への基本的な対応 ②保護者とともにこどもの育ちを支えていくための関わり ③その他の留意事項 ④こども誰でも通園制度における保護者への対応（演習）～事例を通じて考える～	①子育て支援の基本を踏まえた保護者への関わり方を理解する。 ②こども誰でも通園制度の特性を踏まえた保護者への対応のポイントや留意点を理解する。
⑤見学実習オリエンテーション	演習	30～60分	①見学実習の目的 ②見学実習のポイントと配慮事項	①見学実習を行うに当たって必要な配慮事項や見学のポイントについて理解する。 ②見学実習でどのようなことを学びたい

				か、あらかじめ考える機会とする。
6 見学実習	実習 〔講義・演習〕	2 日以上 〔実習と同程度の内容を担保（1 日以上）〕	1 日目 こども誰でも通園制度の 1 日の流れを見る 2 日目 記録・計画、受付等の書類や環境構成、保護者対応の実際等について学ぶ ※従事を予定している事業を見学先とすることが望ましいが、こども誰でも通園制度を実施している事業所がない地域においては、一時預かり事業所又は認可保育所での低年齢児保育による見学実習による代替も可能とする。 ※可能な限り見学実習を実施することが望ましいが、地域の実情等に応じ、DVDの視聴等と講義・演習などによる実施も可能とする。 ※見学実習を行う際には、研修実施機関が見学実習先との連絡調整等を行う。	①こども誰でも通園制度の現場に出向き、講義で学んだ環境整備や保育内容、安全確保など、実際に見学・観察を通して理解する。 ②こどもとの関わりに際して、具体的に参考になることについて理解する機会とする。 （見学実習を講義・演習に代える場合）こどものおむつ交換、食事の介助など、こどもの生活援助について演習を通して理解する。ミルクやほ乳瓶などの実物を知る。